

やまがた女性のつながりサポート事業【山形県】

総事業費

11,091 千円

交付金額

8,318 千円

地域の実情と課題

- ・ひとり親家庭の39.6%が、新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減ったと回答している（山形県ひとり親家庭実態調査）。
- ・また、県男女共同参画センター「チェリア」における相談件数はこころや人間関係の相談を中心に増加している。

事業の特徴

孤独・孤立や不安を抱えた女性に対する支援として、オンラインによる相談及び県内各地のNPO等と連携し、交流スペースやピアサポート、生理用品の無償提供といった女性に対する支援体制を強化する。

事業の効果

引き続き、女性に対する支援に協力いただけるNPO等団体の掘り起こしに努める。事業の参加者等を対象に実施したアンケートでは、「モノづくりを通し会話することで心が穏やかになった」や「少人数でじっくり会話ができて良かった」などの声が多数あり、引き続きサポートしていく必要性があることが分かった。

目的・目標

様々な困難を抱える女性や望まない孤独を感じ不安を感じている女性に寄り添ったきめ細かい支援を行うとともに、生理の貧困に対する支援を行うことで、女性が安心して生活できる環境づくりを図る。

- ・支援団体
目標24団体 実績20団体

連携団体

- ・若年女性県内就職・定着促進協議会等

今後の課題

不安や生きづらさを抱える女性に支援を届けるため、各地域でNPO等の支援団体の掘り起こしを行い、より多くの支援を必要とする女性に情報を届ける。

事業の概要

事業概要

長期化する新型コロナの影響で不安や悩みを抱える女性に、寄り添ったきめ細かい対応を進めていくため、相談体制の充実と女性同士のつながり支援の強化を図る。

開催実績

■県男女共同参画センターの相談機能の強化

- ・女性を対象にした専門家による「こころの相談」を第1・3土曜に実施 実績:24名

■孤独・孤立や不安を抱えた女性に対する支援体制の強化

- ・県内各地のNPO等と連携し、コース毎に女性に対する支援を提供 計20団体

コースⅠ(4団体):交流スペース、ピアサポート、生理用品の無償提供

コースⅡ(8団体):ピアサポート、生理用品の無償提供

コースⅢ(8団体):生理用品の無償提供(困難女性向けの講座・イベント

開催時や子ども食堂等で配布)



事業目標

(目標) 支援提供団体数:24団体 ⇒ (事業実績)20団体

アンケート結果・参加者からの声

- ・アンケートでは、約17%が過去1年以内に生理用品が必要であるにも関わらず、生理用品を購入できなかったり、ためらったことがあると回答(R6.3末時点)
- ・また、交流スペースでは「モノづくりを通し会話をする事で心が穏やかになった」、「少人数でじっくり会話ができて良かった」などの声があった。

